

【目次】

1. 友愛会創立を記念する会から友愛労働歴史館へ寄付金、11月25日！
2. 「政治・社会運動史研究会」をスタート、11月14日！
3. 旧同盟資料、雑誌『明日』などの資料提供を受ける、11月19日・20日
4. 連載「日本労働会館物語」第51回（日本労働会館に結集した人々―武藤光朗氏―）！

1. 友愛会創立を記念する会から友愛労働歴史館へ寄付金、11月25日！

友愛会創立を記念する会（服部光朗会長）は11月25日、友愛労働歴史館研修室において平成26年度第3回幹事会を開催し、本年8月1日に開催した友愛会創立を記念する会102周年記念行事の報告（事業、会計）を承認しました。また、平成27・28年度の新しい役員（服部光朗会長、寺門勉事務局長ら）を選出しました。なお、幹事会で102周年記念事業の剰余金を、友愛労働歴史館に寄付することが正式に確認されました。

2. 「政治・社会運動研究会」をスタート、11月14日！

友愛労働歴史館の活動は大別して、①展示会活動、②資料の収集管理、調査・研究活動、③情報発信・講演会活動などです。これらの中で調査・研究活動は、2012年10月にユニテリアンと社会運動研究会を発足させ研究活動を続けていますが、この程、新たな研究会として「政治・社会運動史研究会」をスタートすることになりました。

これは11月14日に開いた準備会（梅澤昇平友愛労働歴史館研究員ら）で確認したもので、目的は「日本の民主的社会主義政党、並びにそれと関連する社会運動史の調査・研究」です。研究会は当面の活動として旧民社党関係者へのヒアリング、社会民衆党から民社党までの資料収集などを予定しています。

3. 旧同盟資料、雑誌『明日』などの資料提供を受ける、11月19日・20日

友愛労働歴史館は11月19日、旧同盟関係者より旧同盟婦人運動関連資料の提供を受けました。また、20日には埼玉県勤労者生活協同組合と中小企業労働福祉協会より戦前の月刊誌『明日』や戦後の日本社会党関連資料などの寄贈を受けました。

4. 連載「日本労働会館物語」第51回

＜日本労働会館に結集した人々―武藤光朗―＞



今回は当企画展「同盟結成から50年、その今日的意義を探る」の「同盟ゆかりの人々」コーナーで取り上げている武藤光朗（1914～1998）です。

実存主義哲学者ヤスパースの研究者として知られ、中央大学や早稲田大学で教鞭をとった武藤光朗は、1966年に民主社会主義研究会議（現・政策研究フォーラム）議長に就任し、民主社会主義陣営の理論的リーダーの一人として活躍

する中で、「民主社会主義による自由の二重の反抗」を呼び掛けたことで知られています。また、彼はインドシナ難民連帯委員会CSIR会長として、1975年頃からポートピープルとして国外に逃れた100万人以上の「インドシナ難民がもたらす自由と人権のメッセージ」を読み解き、再発信を行いました。さらに武藤光朗は、社会の基本理念である「自由」と「平等」を媒介・統合するものとしての「友愛」に注目し、「友愛民主主義」を提唱したことで知られています。

特に1960年前後、武藤光朗は資本主義経済がもたらす非人間性を克服・修正する方法として、「共産主義的反抗と民主社会主義的反抗」の二つの道があるとし、前者は「人間存在の徹底的な社会化」をもたらす全体主義への道と否定し、「民主社会主義による自由の二重の反抗」を主張しました。これは「資本主義がもたらす貧困と失業、人間的隷属という非人間的事態への反抗」であり、他方、「プロレタリアート独裁のもとでの『強制収容所的事実』の非人間性への反抗」ということでした。そして武藤は、この「民主社会主義による自由の二重の反抗」の主体として、①民主的労働組合と②民主的社会主義政党を挙げ、反抗に立ち上がるよう呼びかけたのです。

ところでグローバル資本主義経済下の今日、武藤光朗が再び注目されています。それは彼が一貫して自由放任の資本主義経済がもたらす「非人間性」を批判し、格差・失業・貧困・不平等・人間的隷属に反抗（改革、修正）するよう呼び掛けたことによります。

そのとき武藤光朗は、ジョン・レノンの「レヴォリューション（革命）」や村上春樹の『ノル



ウェイの森』、尾崎豊の「17歳の地図」などに言及しつつ、個人の尊厳、自由な魂などについて論じました。武藤は彼らの歌や小説の中に、「真に孤独を感じる者だけが深く愛し、交わることができる」という実存哲学的主題を見出し、彼らを通して資本主義経済がもたらす非人間性を批判したのです。



また武藤光朗は、アメリカのロック歌手で「人種差別や労働問題をテーマにした抵抗歌」（音楽評論家・渋谷陽一）を歌い、「怒りと行動の表現者」（同）とされるブルース・スプリングスティーンに共感し、彼が歌う「ファクトリー」（1978年）の中に「疎外された労働」で生きる工場労働者の悲しみと苦しみを聞きとったのです（人物写真はウィキペディアより転載）。

「ファクトリー」 ブルース・スプリングスティーン

「一日が終わり 工場のサイレンがうなる / 人々は 目の中に死を持って
門を出てくる / 必ず今夜誰かが 痛いめにあうはずだ / 働くだけの 働くだけの 働くだけの
の人生だ / 働くだけの 働くだけの 働くだけの人生だ 」

「人間の尊厳、進歩と発達のために」



発行：友愛労働歴史館 責任者：徳田 孝蔵 担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12 友愛会館 8F TEL050-3473-5325

Eメール yuairodorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairodorekishikan.com>

唯一館から 120 年、友愛会から 102 年